

## 浜の活力再生プラン

### 1 地域水産業再生委員会

組織名	横須賀市大楠地区地域水産業再生委員会
代表者名	委員長 福本 憲治

再生委員会の構成員	横須賀市大楠漁業協同組合、横須賀市
オブザーバー	神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の範囲：横須賀市大楠地区</li> <li>・ 漁業の種類：定置網漁業（4経営体） <ul style="list-style-type: none"> <li>：まき網漁業（2経営体）</li> <li>：刺網漁業（75名）</li> <li>：採介藻漁業（71名）</li> <li>：養殖若布漁業（17名）延縄漁業（27名）</li> <li>：タコ壺・籠漁業（52名）</li> <li>：潜水漁業（40名）引き網漁業（2名）</li> <li>：シラス網漁業（5名）</li> <li>：一本釣漁業（87名）</li> </ul> </li> <li>・ 漁業者数：正組合員 150名 准組合員 148名 合計 298名 (平成26年12月31日現在)</li> </ul>
-----------------------	---

### 2 地域の現状

#### (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

横須賀市は、神奈川県南東部の三浦半島に位置し、市域の東側は東京湾、西側は相模湾に面した海に囲まれている。さらに、暖流黒潮が岸を洗う暖冬涼夏の恵まれた気候、緑豊かな自然環境の中、本市の水産業は都市近郊型漁業として発展してきた。

このような背景の基、本市の沿岸漁業は県内第一位の生産量を誇っている。しかしながら、推計ではその9割近くが、京浜地区をはじめ、市外へ流通しているのが実態である。

当該地区は、相模湾内の東部に位置し、三ヶ所(佐島漁港、秋谷漁港、久留和漁港)の漁港と一ヶ所(佐島漁港)の地方卸売市場を有しつつ、背後に山が迫り民家が海岸線に集中した地域でもある。また、年間を通じて温暖な気候ではあるが、四季の様々な表情が見られる風光明媚な地域でもある。さらに、前面に広がる相模湾の沖合には大陸棚が広く分布しており、好漁場として形成されているため、年間2,000t前後の水揚げに恵まれている。

主な漁法は定置網、まき網漁業で、その他、タコツボ・籠漁、かつお一本釣り、シラス網漁、裸もぐり漁などがある。また、主な漁獲魚種は、イワシ(マイワシ、カタクチ、ウ

ルメ)、サバ類 (マサバ、ゴマサバ)、ブリ類 (ブリ、カンパチ等)、カマス (アカカマス、ヤマトカマス)、マダコ、カツオ、シラス、アワビ、サザエ等である。

近年は海水温の上昇による海洋環境の変化などにより、当該地区の主体となる定置網の水揚量は減少傾向にある。また、長期的な魚価の低迷、販路の狭さなどの要因によって、漁業経営が圧迫されている状況にある。しかしながら、マダコやマダイ、イワシ (大羽) 等の魚種は、築地市場等京浜地区においてブランド力を有しており、高値で取引されているため、今後、出荷体制の見直しによる新規販路の構築などに取り組むことによって、一層の魚価向上が見込まれる。

また、当該地区で漁獲されたタコ及びシラスについては、かながわブランド振興協議会が認定する「かながわブランド品」に認定されており、当該地区を代表する魚種として、そのポテンシャルが期待される場所である。

さらに、一般消費者への魚食普及や当該地区の認知度向上を図るため、4月から11月の第4土曜日には佐島漁港内で月一回の朝市を実施したり、市内にある「よこすかポートマーケット」にて当該地区組合員が直売所を開設したりすることで、消費拡大に向けた取り組みに積極的に展開している。

既にこのような取り組みを行っているが、磯焼けや藻場の減少による漁獲量の低迷、組合員の高齢化等により、当該地域の漁業を持続的に維持していくことは喫緊の課題である。

## (2) その他の関連する現状等

当該地区の漁業協同組合は、平成26年3月31日から、隣接する長井町漁業協同組合との合併に向け協議を行っている。また、漁獲量の低迷による販売手数料の減少、神奈川県信用漁業協同組合連合会の信用事業廃止等が原因の減資に伴う欠損処理などによる赤字経営の慢性化を解消するため「大楠漁協経営改善委員会」(平成18年12月発足)を開催し、組合の黒字経営の転換を図るべく「組合経営改善10ヶ年計画」(平成26年1月28日)を策定し実践することで、漁協経営の合理化に向けた努力を行っている。

横須賀市における延観光客は679万人で、うち日帰り客数は653万人であるが、今後、圏央道等の高速道路の整備や横浜横須賀道路の通行料の値下げなど、首都圏や山間部からのアクセスが向上することで日帰り客が増加すると想定され、本地区においても新鮮な水産物を販売するチャンスがこれまで以上に拡大する可能性がある。

このようなタイミングで本プランを実行に移すことによって、従来に比してより高い事業効果が期待できる。

### 3 活性化の取組方針

#### (1) 基本方針

東京、横浜等の大消費地近郊に位置していること、また、かながわブランド振興協議会が認定する「かながわブランド」を取得したタコを筆頭に、四季を通じて多種多様な魚種が獲れる相模湾が主な漁場であることを活かし、大楠地区が「漁業が盛んで、海の幸を新鮮度のまま美味しく食べられる地域である」というイメージを定着させることで、新たな販路を見出すだけでなく、一般消費者も直接取り込み、所得向上を目指す。また、採藻が活発に行われている天然ヒジキについて、つきいそにより、さらなる増産を目指す。さらに、漁業操業の効率化及び漁業コストの削減や積極的な水産資源を維持・管理することで漁業者所得の向上を目指し、後継者育成の促進に努めることを基本方針とする。

#### 1 かながわブランドを活用した誘客促進の取り組み

##### (1) (仮称) 佐島タコ祭りの開催

かながわブランドを取得したタコを活用する「佐島タコ祭り (仮称)」を開催し、本地区の主要イベントとして定着させることでタコ及び大楠地区の認知度向上を目指す。

##### (2) タコ加工施設の整備・共同販売

自前でタコの加工施設を持たない漁業者のために、これまで単価の安い時期に活ダコで出荷していたものを茹で加工・冷凍保存により出荷調整ができるよう、いつでも利用できる共同加工施設を漁協が整備して魚価向上に取り組む。

また、タコ生産者グループによるタコ部会 (仮称) を組織し、入札より高値で直接取引による自家出荷を目指すなど、漁業者が共同販売できる仕組みをつくることで、漁業者の手取り向上にも取り組む。

#### 2 多様な出荷ニーズに対応する体制の構築と販路拡大の取り組み

##### (1) 出荷体制の見直し

漁業収入を向上させるため、高値取引が見込まれる市場等への出荷体制の構築を行う。具体的には、これまですべて漁協の受託販売により地元仲買が購入していたものを、今後は活タコの一部を漁協が直接販売や築地市場等に自家出荷することを目指す。

##### (2) 地産地消の推進

朝市での直接販売を通して、大楠地区で獲れた水産物をPRし、イメージアップを図る。また、市内水産物の振興を図る目的で開催されている「よこすかさかな祭り」等のイベントや、横須賀市が実施する市内での地場産魚介類の消費拡大を図る「海の幸フェア」への参加・協力を通じて、魚食普及や本地区の魚介の知名度向上による消費拡大に向けた取り組みを実施する。

#### 3 資源管理等による水産資源の確保・向上の取り組み

##### (1) つきいそによるヒジキの増産

神奈川県水産技術センターと連携し、自生ヒジキの群落の近傍にコンクリートブロックを用いたつきいそを設置することで、ヒジキの生産量を拡大し、漁業収入の向上を目指す。

## (2) 種苗放流・磯焼け対策等

地先資源の持続的な管理のために、漁業者が大楠漁協と連携し、資源増大のための種苗放流（さざえ、あわび）に積極的に取り組む。また、水産多面的機能発揮対策事業を活用し、ウニ類（ガンガゼ等）の駆除の取組みを継続しつつ、併せて神奈川県水産技術センターとも連携して磯焼け対策を実施し、水産資源の維持・増大を図る。

## 4 後継者育成の取り組み

市内小学校からの市場見学や種苗放流体験、市内中学校や近隣の県立海洋科学高校からの定置網漁体験や職業体験の受入体制づくりを行うなど、地域の水産業へ興味を持ってもらうとともに、沿岸漁業についての理解を深めてもらい、将来の就業につながる環境を整える。

## 5 漁業コスト削減の取り組み

燃油使用量削減のため、船底の定期的な清掃、メンテナンス及び、出漁や帰港時の減速航行等の取組みについて、実施方法などの検討を行い、漁業経費の削減を図る。

## (2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

- ・ 神奈川県海面漁業調整規則
- ・ 共第7号第一種共同漁業権行使規則
- ・ 共第7号第二種共同漁業権行使規則

## (3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

【1年目（平成28年度）】数値目標：初年度は準備・検討期間のため数値目標なし

漁業収入向上のための取組	<p><b>1 かながわブランドを活用した誘客促進の取り組み</b></p> <p>(1) (仮称) 佐島タコ祭りの開催 朝市などのイベントにおいて、佐島タコの試食会等、PR活動を行い、お客様にタコの美味しさを知ってもらうなど、知名度の向上に努める。また、タコ祭りの運営体制・具体的な内容等について検討する。</p> <p>(2) タコ加工施設の整備 タコ加工施設の設置に向けて場所や規模等の調査・検討を行う。また、漁業者への貸出ルールや共同販売を行うための体制づくり等を行う。</p> <p><b>2 多様な出荷ニーズに対応する体制の構築と販路拡大の取り組み</b></p> <p>(1) 出荷体制の見直し 高値取引が見込まれる市場等において、ニーズ調査を行うことで取引</p>
--------------	--

	<p>につながりそうな魚種を選定し、業者と取引交渉を進める。</p> <p><b>(2) 地産地消の推進</b></p> <p>朝市において本地区の水産物を来場者にPRしながら直接販売することでイメージアップにつなげる。また、よこすかさかな祭りなどの水産関連イベントに積極的に参加する。</p> <p><b>3 資源管理等による水産資源の確保・向上の取り組み</b></p> <p><b>(1) つきいそによるヒジキの増産</b></p> <p>県水産技術センターから技術指導を受け、大楠漁協が主体となり、つきいそによるヒジキ増産の取り組みを試験的に実施する。</p> <p><b>(2) 種苗放流・磯焼け対策等</b></p> <p>漁業者が大楠漁協と連携し、資源増大のための種苗放流（さざえ、あわび）に積極的に取り組み、どの魚介類が種苗放流の効果がどうか調査を開始する。また、県水産技術センターからの助言を受けながらウニ類（ガンガゼ等）の駆除の取り組みを継続し、磯焼け対策を実施する。</p> <p><b>4 後継者育成の取り組み</b></p> <p>小学生を対象とした市場見学、中学生や県立海洋科学高等学校の生徒を対象とした職業体験等について、各学校のニーズ等を把握するための調査を行う。さらに学校との協議を行い、具体的な実施内容を検討する。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>全漁業者が省エネ航行に取組むこと、又、定期的なメンテナンスを行うことにより漁業コストの削減に努めるため、他漁協での取組について調査・検討を行う。また、船底清掃の奨励なども含めた定期研修会の開催を目指し、実施方法等について、調査・検討を行う。</p>
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策事業

【2年目（平成29年度）】数値目標：基準年から3%増

漁業収入向上のための取組	<p><b>1 かながわブランドを活用した誘客促進の取り組み</b></p> <p><b>(1) (仮称) 佐島タコ祭りの開催</b></p> <p>タコ祭りを開催する。開催結果を受け、次年度以降の開催内容について改善を行う。今後もタコ祭りが定着するよう、内容やPR方法についても検討する。</p> <p><b>(2) タコ加工施設の整備</b></p> <p>タコ加工施設を設置し、試験運用・販売を開始する。また、施設の安定的な活用を図るため、管理運営体制や利用ルールの改善を行う。さらに、販路拡大に向け、2(1)(2)と連携した出荷・販売体制や、インターネットを利用した販売方法についても検討を行う。</p>
--------------	--

	<p><b>2 多様な出荷ニーズに対応する体制の構築と販路拡大の取り組み</b></p> <p>(1) 出荷体制の見直し 前年に交渉を行った業者との取引を開始する。また、次年度以降の出荷体制についても検討する。</p> <p>(2) 地産地消の推進 引き続き、朝市やタコ祭りにおいて本地区の水産物を来場者にPRしながら直接販売することでイメージアップにつなげる。また、よこすかさかな祭りなどの水産関連イベントに積極的に参加する。</p> <p><b>3 資源管理等による水産資源の確保・向上の取り組み</b></p> <p>(1) つきいそによるヒジキの増産 引き続き、県水産技術センターから技術指導を受け、大楠漁協が主体となり、つきいそによるヒジキ増産の取り組みを試験的に実施する。</p> <p>(2) 種苗放流・磯焼け対策等 引き続き、漁業者が大楠漁協と連携し、資源増大のための種苗放流(さざえ、あわび)に積極的に取り組み、どの魚介類が種苗放流の効果が高いか調査する。また、県水産技術センターからの助言を受けながらウニ類(ガンガゼ等)の駆除の取り組みを継続し、磯焼け対策を実施する。</p> <p><b>4 後継者の育成の取り組み</b> 小学生対象の市場見学、中学生や県立海洋科学高等学校生徒対象の職業体験等を行う。体験者からの意見を基に、次年度以降の改善点を協議・検討する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者が省エネ航行に取り組むこと、又、定期的なメンテナンスを行うことにより漁業コストの削減に努める。また、船底清掃の奨励なども含めた研修会を適宜開催する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産多面的機能発揮対策事業</p>

【3年目(平成30年度)】数値目標：基準年から5%増

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>1 かながわブランドを活用した誘客促進の取り組み</b></p> <p>(1) (仮称) 佐島タコ祭りの開催 引き続き、タコ祭りを開催する。開催結果を受け、次年度以降の開催内容やPR方法について改善を行う。</p> <p>(2) タコ加工施設の整備 本格的な運用・販売を開始する。2(1)(2)と連携した出荷・販</p>
---------------------	--

	<p>売を行い、インターネットを利用した販売も開始する。</p> <p><b>2 多様な出荷ニーズに対応する体制の構築と販路拡大の取り組み</b></p> <p>(1) 出荷体制の見直し 引き続き、高値取引が見込まれる市場等への安定的な出荷を図る。さらに他の魚種・業者においても取引を行うべく交渉を進める。</p> <p>(2) 地産地消の推進 引き続き、朝市やタコ祭りにおいて本地区の水産物を来場者にPRしながら直接販売することでイメージアップにつなげる。また、よこすかさかな祭りなどの水産関連イベントに積極的に参加する。</p> <p><b>3 資源管理等による水産資源の確保・向上の取り組み</b></p> <p>(1) つきいそによるヒジキの増産 引き続き、県水産技術センターから技術指導を受け、大楠漁協が主体となり、つきいそによるヒジキ増産の取り組みを試験的に実施する。</p> <p>(2) 種苗放流・磯焼け対策等 引き続き、漁業者が大楠漁協と連携し、資源増大のための種苗放流(さざえ、あわび)に積極的に取り組み、どの魚介類が種苗放流の効果がどうか調査する。また、県水産技術センターからの助言を受けながらウニ類(ガンガゼ等)の駆除の取り組みを継続し、磯焼け対策を実施する。</p> <p><b>4 後継者の育成の取り組み</b> 小学生対象の市場見学、中学生や県立海洋科学高等学校生徒対象の職業体験等を行う。体験者からの意見を基に、次年度以降の改善点を協議・検討する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者が省エネ航行に取り組むこと、又、定期的なメンテナンスを行うことにより漁業コストの削減に努める。また、船底清掃の奨励なども含めた研修会を適宜開催する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産多面的機能発揮対策事業</p>

【4年目(平成31年度)】数値目標：基準年から7.5%増

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>1 かながわブランドを活用した誘客促進の取り組み</b></p> <p>(1) (仮称) 佐島タコ祭りの開催 引き続き、タコ祭りを開催する。開催結果を受け、次年度以降の開催内容やPR方法について改善を行う。</p> <p>(2) タコ加工施設の整備</p>
---------------------	--

	<p>本格的な運用・販売を開始する。2（1）（2）と連携した出荷・販売を行い、インターネットを利用した販売も継続して行う。</p> <p><b>2 多様な出荷ニーズに対応する体制の構築と販路拡大の取り組み</b></p> <p>（1）出荷体制の見直し 引き続き、高値取引が見込まれる市場等への安定的な出荷を図るため、取扱い業者・漁業者との協議・調整を行う。さらに他の魚種・業者とも交渉を進め、取引を拡大する。</p> <p>（2）地産地消の推進 引き続き、朝市やタコ祭りにおいて本地区の水産物を来場者にPRしながら直接販売することでイメージアップにつなげる。また、よこすかさかな祭りなどの水産関連イベントに積極的に参加する。</p> <p><b>3 資源管理等による水産資源の確保・向上の取り組み</b></p> <p>（1）つきいそによるヒジキの増産 これまでの取組から得られた知見を基に、大楠地区におけるヒジキ増産の手法及び増産したヒジキの出荷体制を確立させ、本格的な増産に取り組む。</p> <p>（2）種苗放流・磯焼け対策等 引き続き、漁業者が大楠漁協と連携し、資源増大のための種苗放流（さざえ、あわび）に積極的に取り組み、どの魚介類が種苗放流の効果がどうか調査する。また、県水産技術センターからの助言を受けながらウニ類（ガンガゼ等）の駆除の取組みを継続し、磯焼け対策を実施する。</p> <p><b>4 後継者の育成の取り組み</b> 小学生対象の市場見学、中学生や県立海洋科学高等学校生徒対象の職業体験等を行う。体験者からの意見を基に、次年度以降の改善点を協議・検討する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者が省エネ航行に取り組むこと、又、定期的なメンテナンスを行うことにより漁業コストの削減に努める。また、船底清掃の奨励なども含めた研修会を適宜開催する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産多面的機能発揮対策事業</p>

【5年目（平成32年度）】数値目標：基準年から10.1%増

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>1 かながわブランドを活用した誘客促進の取り組み</b></p> <p>（1）（仮称）佐島タコ祭りの開催</p>
---------------------	--



	<p>タコ祭りを開催し、引き続きタコ祭りが本地区の主要なイベントとして認識されるよう、改善・検討を行う。</p> <p><b>(2) タコ加工施設の整備</b></p> <p>本格的な運用・販売を開始する。2(1)(2)と連携した出荷・販売を行い、インターネットを利用した販売も継続して行う。</p> <p><b>2 多様な出荷ニーズに対応する体制の構築と販路拡大の取り組み</b></p> <p><b>(1) 出荷体制の見直し</b></p> <p>引き続き、高値取引が見込まれる市場等への安定的な出荷を図るため、取扱い業者・漁業者との協議・調整を行う。さらに他の魚種・業者においても取引を進め、市場への出荷量を増やしていく。</p> <p><b>(2) 地産地消の推進</b></p> <p>引き続き、朝市やタコ祭りにおいて本地区の水産物を来場者にPRしながら直接販売することでイメージアップにつなげる。また、よこすかさかな祭りなどの水産関連イベントに積極的に参加する。</p> <p><b>3 資源管理等による水産資源の確保・向上の取り組み</b></p> <p><b>(1) つきいそによるヒジキの増産</b></p> <p>ヒジキの増産手法を確立させ、今後の安定的な出荷のため、引き続きさらなる生産・出荷体制の検討・改善を行い、生産量を拡大させる。</p> <p><b>(2) 種苗放流・磯焼け対策等</b></p> <p>引き続き、漁業者が大楠漁協と連携し、資源増大のための種苗放流(さざえ、あわび)に積極的に取り組み、どの魚介類が種苗放流の効果が高いか調査する。また、県水産技術センターからの助言を受けながらウニ類(ガンガゼ等)の駆除の取組みを継続し、磯焼け対策を実施する。</p> <p><b>4 後継者の育成の取り組み</b></p> <p>小学生対象の市場見学、中学生や県立海洋科学高等学校生徒対象の職業体験等を行う。体験者からの意見を基に、次年度以降の改善点を協議・検討する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者が省エネ航行に取り組むこと、又、定期的なメンテナンスを行うことにより漁業コストの削減に努める。また、船底清掃の奨励なども含めた研修会を適宜開催する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産多面的機能発揮対策事業</p>

(4) 関係機関との連携

つきいそによるヒジキの増産、磯焼け対策、漁業コスト削減に取り組む上での漁具清掃・メンテナンス・減速航行等について、神奈川県水産技術センターと連携を図り、技術指導を受けながら実施する。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上	%以上	基準年	平成	年度：漁業所得	千円
		目標年	平成	年度：漁業所得	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産多面的機能発揮対策事業	地先資源の持続的な利用管理のため、磯焼け対策として、ウニ類（ガンガゼ等）の駆除に取り組む。